

縦横

「WTI (West Texas Intermediate) 原油」とは、アメリカのテキサス州西部で採取される軽質原油のことである。驚くべきことに、この地域の原油の一日当たりの産出量はせいぜい100万バレル。しかるに、ニューヨーク原油市場では、「WTI 原油先物」としてその取引量は一日1億バレルを超える。なんと現物の100倍以上のカラ取引がなされている勘定だ。日本が主として輸入している中東原油は、ドバイ産原油のスポット市場の価格支配下にあるが、それもニューヨーク市場の支配を受けるから、このカジノゲームに踊らされ、今やこちらもバレル150ドル時代に突入しようとしている。

同じような事態は、外国為替市場でも起こっている。貿易の決済に使われる実需としての為替総額の何十倍もの売買がここでマネーゲームとして行われている。もはや資本主義は花札賭博かコンピュータゲームと化しているのだ。街の工場から出荷される製品の価格も、よってそこで製造にタッチした労働者の汗一粒の価値までもがこれに支配されている。

サブプライムローンバブルの崩壊で行き先を失った強欲の魔物が、今度はその魔手をシカゴの穀物市場に振り向け始めた。このために世界中で食糧価格が急騰し、アジア・アフリカの最貧国に餓死を蔓延させている。もはや、「プロテスタンティズムの倫理」と言われ、「神の見えざる手」と崇められた近代資本主義は人類の敵として立ちはだかっている。

国内に目を転じてみると、「新自由主義」を統治原理とし、「小泉構造改革」の名の下に行われた「ネオコン」政治は、地域、所得、性別、職業、産業、年齢等々、ありとある格差を作り上げてしまった。人々は地域に住む他者との関係性(＝地域性)を失い、身のまわりの環境や自然との関係性(＝風土性)すらも失いつつある。それが目に見える形で「限界集落」や広大な「耕作放棄地」となって広がっている。

カジノ資本主義の「カラ取引的豊かさ」の軍門に下るか、それとも地域性と風土性との根ざした実物経済の「豊穰さ」を再確認するか、思慮する時間はもはや残っていない。

